

福岡県指定有形文化財

ぶそうじえんぎ  
武蔵寺縁起

## 第一幅

縁起とは、社寺の起こりや沿革、  
靈験れいげんなどの言い伝え、あるいはこれ  
を書き記したものをいいます。奈良  
時代後期から寺院の増加につれて縁  
起もふえ、平安時代後期からは絵巻  
物化されていきました。これが縁起  
絵図とよばれるものです。室町時代  
以降、社寺の経済的な基盤が失われ  
はじめると、民衆から寄進を求める  
宣伝手段として縁起や縁起絵図は重  
要な役割を果たすようになっていき  
ました。

全5幅からなる武蔵寺縁起絵図  
は、江戸時代中期（18世紀）に  
描かれたとされています。

また、江戸時代中期以前に定應と  
いう武蔵寺の僧侶によって書かれた  
「椿花山武蔵寺薬師如来縁起」が明  
治期の写本としてあり、縁起絵図と  
ともに武蔵寺伝説を伝えるものとし  
て貴重です。



※紙本著色 画面ヨコ51.8cm  
上下は欠損している。

武蔵寺は「今昔物語集」や「梁塵秘抄」  
にも見える著名な古代寺院である。境内から  
大治元年（1126）銘の経筒も出土しているこ  
とからみて、平安時代後期が武蔵寺の最盛期  
であったと思われる。

この絵図の伽藍がらんは、おそらく当時を偲しのんで  
描かれたものであろう。



現在の武蔵寺（筑紫野市大字武蔵）

## 椿花山武蔵寺縁起 (写)

以下は武蔵寺縁起絵図第1幅にあたる箇所を抄訳したものです。

▼縁起 (写) の一部

奇功妙用の賢筆、或時は勇健威猛の大力  
 士、斐々として武門を擁護志  
 総て諸厄諸難を滅して安  
 泰の祥福を授け給ふに疾  
 風の雲霧を披よま速かり  
 斯る尊き神妙円満の功徳ハ  
 貴賤を一切胎即温化草木  
 國土に至る誠の波へ(出家)  
 筑前州前州郡笠郡武蔵村  
 椿花山武蔵寺を大職冠鎌  
 足公の支裔藤原虎鷹の  
 閑基を皇虎麻呂を昔天  
 智天武の二帝より歴仕去て武  
 備功烈拔群を皇志か二帝  
 屢々賞録を加へ賜ひて終了

薬師瑠璃光如来のおこないは諸仏にまさり、その光明は万物を照らしている。万物の生氣は如来を信仰することによって活発になるのである。静かにこの仏の教えを考えると、ひとたび如来の声に耳を傾けた人は病にかからず、心身ともに安らかになり、いろいろな願いがかなえられるのである。ただ一度の縁であっても、このようなご利益があるのだから、まして熱心に如来にすがる者は、たとえばかり知れないほどの罪を犯していたとしても、まっとうな人間になれるのである。およそ万民の願いをかなえるため、冥土では迷える民衆を導き、現世ではさまざまに姿を変えて人々の心身を乱す煩惱を除き、重病に苦しむ人には薬を与え、またあるときには勇猛な大力士となって武家を守るなど、すべての災いや苦しみを滅して速やかに福を授けるのである。このような尊い仏の恵みは万物すべてに及ぶ。まことにあがめ敬うべきものである。

ここ筑前州(国)御笠郡武蔵村の椿花山武蔵寺は、大職冠鎌足公(藤原鎌足)の子孫である藤原虎鷹が創立したものである。虎鷹は昔、天智・天武の二帝につかえ、戦に大きな功績があったので、二帝はしばしば褒美を与え、虎鷹はついに筑前国を治めることにな

り、同国御笠郡武蔵村須多礼に大館を構えたのである。その館は塀や軒が連なり、いく棟にも並んで屋根には瓦がふかれ、庇の角も高くそびえ、そのつくりの見事なさまには目を見はるばかりであった。虎鷹はここに住み、昼夜にわたって家来がつかえ、門前は常に市をなすほどの賑やかさである。多くの家来のうち、特に虎鷹が頼りにしている75人は近隣の上武蔵、中武蔵、下武蔵の3村に分れて住んでいた。



「虎鷹長者の碑」と伝えられる自然石の梵字板碑。武蔵寺の山門をくぐった右横に建っている。貞和3年(1347)銘と薬師如来を表わす「バイ」が刻まれている。市指定有形文化財。